

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2025年 4月 1日

株式会社 竹下生コン

広島県山県郡北広島町都志見567番地

配合計画者名 寄政 敏雄

工事名称														
所在地														
納入予定時期														
本配合の適用期間		4月1日～6月30日, 9月11日～11月20日 左記以外の期間は備考欄に記述 (標準配合)												
コンクリートの打込み箇所														
配 合 の 設 計 条 件														
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラング [°] 又はスラング [°] フロー [°] cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号									
	普通	27	12	20	BB									
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載									
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -									
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³									
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	最高・最低 - °C									
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %									
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³									
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位水用量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³									
	呼び強度を保証する材齢	28日		流動化後のスラング又はスラングフローの増大量	- cm									
使 用 材 料														
セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ O eq %	-						
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ O eq %	-						
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ O eq %	-						
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分	粒の大きさ	粗粒率又は	密度 g/cm ³	微粒分量の						
				区分	試験方法	の範囲	実積率	絶乾表乾	範囲%					
細骨材	①	加工砂	広島県山県郡北広島町都志見	A	化学法	5mm以下	2.70	-	2.54	-				
骨材	②	砕砂	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	5mm以下	2.90	-	2.63	7.0±2.0				
材	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
粗骨材	①	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
骨材	②	砕石	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	13～5mm	6.30	-	2.69	1.0±1.0				
材	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
骨材	④	砕石	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	20～13mm	7.05	-	2.70	1.0±1.0				
混和剤①	製品名	シーカビ スコフロー150Rsure		AE減水剤 標準形 (I種)				Na ₂ O eq %			-			
混和剤②	製品名	-		-				Na ₂ O eq %			-			
混和剤③	製品名	-		-				Na ₂ O eq %			-			
細骨材の塩化物量		①0.000%		水の種類	地下水・回収水 (上澄み水)			目標スラッジ 固形分率			- %			
回収骨材の使用法		細骨材		粗骨材		-		スラッジ 水の使用法				-		
配 合 表 kg/m ³														
セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
336	-	-	173	500	333	-	-	329	-	611	2.69	-	-	
水セメント比			51.5 %	水結合材比			- %				細骨材率			48.1 %
備考				骨材混合比 (質量混合)		細骨材① : ②		粗骨材④ : ②		60 : 40 65 : 35				
骨材の質量配合割合, 混和剤の使用量については, 断りなしに変更する場合があります。修正標準配合として次に示す適用期間の間, 混和剤①の単位数のみ変更いたします。また, 夏期修正標準配合期間内についてはAE減水剤 (遅延形) を使用する場合があります。夏期7月1日～9月10日 C×1.0%、冬期11月21日～3月31日 C×0.6%														

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ [°] 又はスランブ [°] フロー [°] cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	最高・最低 - °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保證する材齢 空気量	28日 4.5 %		流動化後のスランブ又はスランブフローの増大量	- cm

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10 %

(2) 配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 33.8 \text{ N/mm}^2$$

よって m = 33.8 N/mm²

(3) 水セメント比(W/C) $m = -11.8 + 23.5 \times C/W$
 $W/C = 23.5 \div (33.8 + 11.8) \times 100 = 51.5 \% \leq \text{【55\% (上限値)】}$
 $\therefore W/C = 51.5 \%$

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 173 kg/m³

(5) 単位セメント量(C) $C = W \div (W/C) \times 100 = 173 \div 51.5 \times 100 = 336 \text{ kg/m}^3$
 $C_v = C \div \text{密度} = 336 \div 3.04 = 111 \text{ } \ell/\text{m}^3$

(6) 空気量(A) $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ } \ell/\text{m}^3$

(7) 細骨材率(s/a) 当工場の実績により s/a = 48.1 %

(8) 単位細骨材量(S) $S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 671 \times 48.1 \% = 323 \text{ } \ell/\text{m}^3$
 $S = S_v \times \text{表乾密度} = 323 \times 2.58 = 833 \text{ kg/m}^3$
 $S_1 = S \times 60.0 \% = 500 \text{ kg/m}^3$
 $S_2 = S \times 40.0 \% = 333 \text{ kg/m}^3$

(9) 単位粗骨材量(G) $G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 652 = 348 \text{ } \ell/\text{m}^3$
 $G = G_v \times \text{表乾密度} = 348 \times 2.70 = 940 \text{ kg/m}^3$
 $G_1 = G \times 35.0 \% = 329 \text{ kg/m}^3$
 $G_2 = G \times 65.0 \% = 611 \text{ kg/m}^3$

(10) 単位混和剤量(Ad) $Ad = C \times \text{添加率} \times \text{密度} = 336 \times 0.8 \% \times 1.00 = 2.69 \text{ kg/m}^3$

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤				
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③		
336	-	-	173	500	333	-	-	329	-	611	2.69	-	-		
水セメント比	51.5 %		細骨材率	48.1 %			骨材混合比 (質量混合)	細骨材① : ②		60 : 40		粗骨材④ : ②		65 : 35	

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2025年 4月 1日

株式会社 竹下生コン

広島県山県郡北広島町都志見567番地

配合計画者名 寄政 敏雄

工 事 名 称													
所 在 地													
納 入 予 定 時 期													
本配合の適用期間		7月1日～9月10日 (夏期修正標準配合)											
コンクリートの打込み箇所													
配 合 の 設 計 条 件													
呼び方	コンクリートの種類による記号		呼び強度		スランブ [°] 又はスランブ [°] フロー [°] cm		粗骨材の最大寸法 mm		セメントの種類による記号				
	普通		27		12		20		BB				
指定事項 (必須)	セメントの種類		呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法		呼び方欄に記載						
	骨材の種類		使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法		BB						
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分		使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量		— kg/m ³						
	舗装コンクリートの強度試験方法		曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度		最高・最低 — °C						
	水の種類		使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限		55 %						
	混和材料の種類及び使用量		使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限		— kg/m ³						
	塩化物含有量		0.30 kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限		— kg/m ³						
	呼び強度を保証する材齢		28日		流動化後のスランブ又はスランブフローの増大量		— cm						
	空気量		4.5 %										
使 用 材 料													
セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ O eq %	—					
混和材①	製品名	—		種類	—		密度 g/cm ³	—		Na ₂ O eq %	—		
混和材②	製品名	—		種類	—		密度 g/cm ³	—		Na ₂ O eq %	—		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲%			
				区分	試験方法			絶乾	表乾				
細骨材①	加工砂	広島県山県郡北広島町都志見		A	化学法	5mm以下	2.70	—	2.54	—			
骨材②	砕砂	安芸高田市八千代町向山		A	モルタルバー法	5mm以下	2.90	—	2.63	7.0±2.0			
材③	—	—		—	—	—	—	—	—	—			
粗骨材①	—	—		—	—	—	—	—	—	—			
骨材②	砕石	安芸高田市八千代町向山		A	モルタルバー法	13～5mm	6.30	—	2.69	1.0±1.0			
	—	—		—	—	—	—	—	—	—			
材④	砕石	安芸高田市八千代町向山		A	モルタルバー法	20～13mm	7.05	—	2.70	1.0±1.0			
混和剤①	製品名	シーカビ スコフロー155Rsure		種類		AE減水剤 遅延形 (I種)		Na ₂ O eq %		—			
混和剤②	製品名	—		種類		—		—		—			
混和剤③	製品名	—		種類		—		—		—			
細骨材の塩化物量		①0.000%		水の種類		地下水・回収水 (上澄み水)		目標スラッジ 固形分率		— %			
回収骨材の使用方法		細骨材		粗骨材		—		スラッジ 水の使用方法		—			
配 合 表 kg/m ³													
セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
336	—	—	173	500	333	—	—	329	—	611	3.36	—	—
水セメント比			51.5 %		水結合材比		— %		細骨材率		48.1 %		
備考				骨材混合比 (質量混合)		細骨材① : ②		60 : 40		粗骨材④ : ②		65 : 35	
骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤①の単位数のみ変更いたします。また、夏期修正標準配合期間内についてはAE減水剤 (遅延形) を使用する場合があります。夏期7月1日～9月10日 C×1.0%、冬期11月21日～3月31日 C×0.6%													

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ [°] 又はスランブ [°] フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	最高・最低 - °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保證する材齡 空気量	28日 4.5 %		流動化後のスランブ又はスランブフローの増大量	- cm

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10 %

(2) 配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 33.8 \text{ N/mm}^2$$
 よって m = 33.8 N/mm²

(3) 水セメント比(W/C) $m = -11.8 + 23.5 \times C/W$
 $W/C = 23.5 \div (33.8 + 11.8) \times 100 = 51.5 \% \leq \text{【55\% (上限値)】}$
 $\therefore W/C = 51.5 \%$

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 173 kg/m³

(5) 単位セメント量(C) $C = W \div (W/C) \times 100 = 173 \div 51.5 \times 100 = 336 \text{ kg/m}^3$
 $C_v = C \div \text{密度} = 336 \div 3.04 = 111 \text{ } \ell/\text{m}^3$

(6) 空気量(A) A = 4.5 % × 1000 = 45 ℓ/m³

(7) 細骨材率(s/a) 当工場の実績により s/a = 48.1 %

(8) 単位細骨材量(S) $S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 671 \times 48.1 \% = 323 \text{ } \ell/\text{m}^3$
 $S = S_v \times \text{表乾密度} = 323 \times 2.58 = 833 \text{ kg/m}^3$
 $S_1 = S \times 60.0 \% = 500 \text{ kg/m}^3$
 $S_2 = S \times 40.0 \% = 333 \text{ kg/m}^3$

(9) 単位粗骨材量(G) $G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 652 = 348 \text{ } \ell/\text{m}^3$
 $G = G_v \times \text{表乾密度} = 348 \times 2.70 = 940 \text{ kg/m}^3$
 $G_1 = G \times 35.0 \% = 329 \text{ kg/m}^3$
 $G_2 = G \times 65.0 \% = 611 \text{ kg/m}^3$

(10) 単位混和剤量(Ad) Ad = C × 添加率 × 密度 = 336 × 1.0 % × 1.00 = 3.36 kg/m³

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
336	-	-	173	500	333	-	-	329	-	611	3.36	-	-
水セメント比	51.5 %		細骨材率	48.1 %			骨材混合比 (質量混合)	細骨材① : ② 粗骨材④ : ②			60 : 40 65 : 35		

備考